

研究計画書

ゼミ名	永廣ゼミⅡ	チーム名	Bienestar (ビエネスタール)
タイトル	生活保護をどうするか？—「公平性」を重視した制度設計について—		
テーマ群	b)財政・金融 c)公共経済		
メンバー	泉田陽平・井上直也・岩淵祥大・上野亜也子・黒岩琢弥・駒田光保 高重みちる・堤健史郎・中井徹・船倉洋平・松木裕尚・吉田佑		
研究計画内容	<p>私たちが生活保護というテーマを選んだのは、初めは今年の5月頃に芸能人の家族に関する生活保護の問題がニュースで取り上げられていたという安易な理由からでした。しかし、生活保護について調べていくうちに、穴だらけの制度による不正受給などの不公平に憤慨し、これを正したいと考えるようになりました。そして、どうすれば「公平性」を重視した生活保護の制度設計ができるのかを、チームの研究テーマとして取り組むことになりました。</p> <p>私たちは、生活保護制度を2つの「公平性」の欠如、一つは生活保護受給者間での「公平性」の欠如、もう一つは生活保護受給者・非正規雇用者間での「公平性」の欠如という点から考えていきます。</p> <p>まず、生活保護受給者には返還義務がない、罰則がゆるい、現金給付なので使い道が不明確であるという3つの問題点があります。以上の問題点により、不正受給者が増えて、貧困に苦しんでいる人と酒・タバコなどに受給額を使っている人がいる、つまり生活保護受給者間での公平性の欠如に繋がっていると考えます。</p> <p>続いて、生活保護受給者・非正規雇用者間での公平性の欠如については、近年、就労可能な若年層の生活保護受給者が急増していますが、その世代の非正規雇用者の所得と比べると、生活保護受給者の受給額の方が高くなるという事態が発生しています。これでは若年層の働く意欲はなく、働く意欲は薄れてしまいます。</p> <p>以上の2つの「公平性」の欠如を解消するために、私たちは、現金給付よりも現物給付の割合を高めること、就労可能な若年層の生活保護受給者に対して働くインセンティブを与えることを提案します。</p> <p>これらの提案から、生活保護受給者間に存在する不正受給が減り、社会の手が本当に必要な人に生活保護が行き渡ることによって生活保護受給者間の「公平性」を高め、さらに、生活保護を受けている就労可能な若年層の社会復帰によって生活保護受給者・非正規雇用者間での「公平性」を高めることができると考えます。</p>		